



シェアサイクルで街をささえ人がそだつ ～札幌市での自転車文化の鼓動～



2025年4月11日
認定NPO法人ポロクル

わたしたちの Vision

「めざすもの」

歩行者・自転車・自動車が
お互いに思いやりを持ち、
安全安心に
笑顔で楽しめるまち

わたしたちの Mission

「使命」

サイクルシェアリング事業を通して
まちづくり・ひとづくり・
魅力づくりに
貢献

大きな 4つの取り組み

1. 自転車共同利用サービス事業
2. 自転車利用のルール・マナー、
環境負荷低減に関する啓発活動事業
3. ホームページなどによる交通安全や
環境保全に関する情報提供事業
4. その他、その目的を達成するために
行う付帯事業

さっぽろみんなのサイクル『ポロクル』



2025年度『ポロクル』サービス概要



【実施・運営主体】
認定NPO法人ポロクル

【システム提供】
株式会社ドコモ・バイクシェア

【現場運営】
NPO法人ezorock

【営業期間】
4月6日～11月15日(冬期休業)

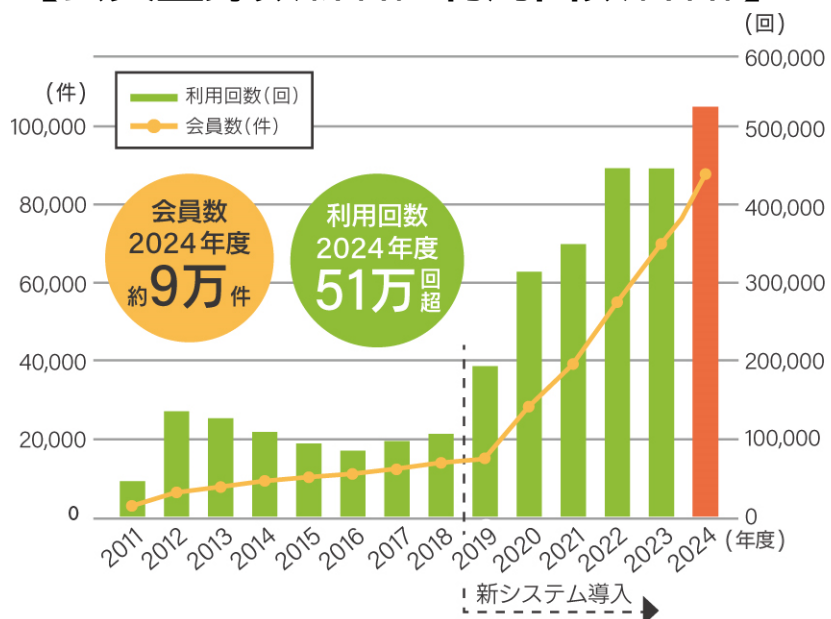
【ポート】 60カ所よりスタート

【自転車】 約620台

【主なプラン】

- ・1回会員) 165円/回 ※1回30分
- ・月額会員) 3,300円/月
- ・1日パス) 1,760円～

【会員登録数(累計)・利用回数(年計)】



2024年度
データ

1日平均利用回数
2,304回

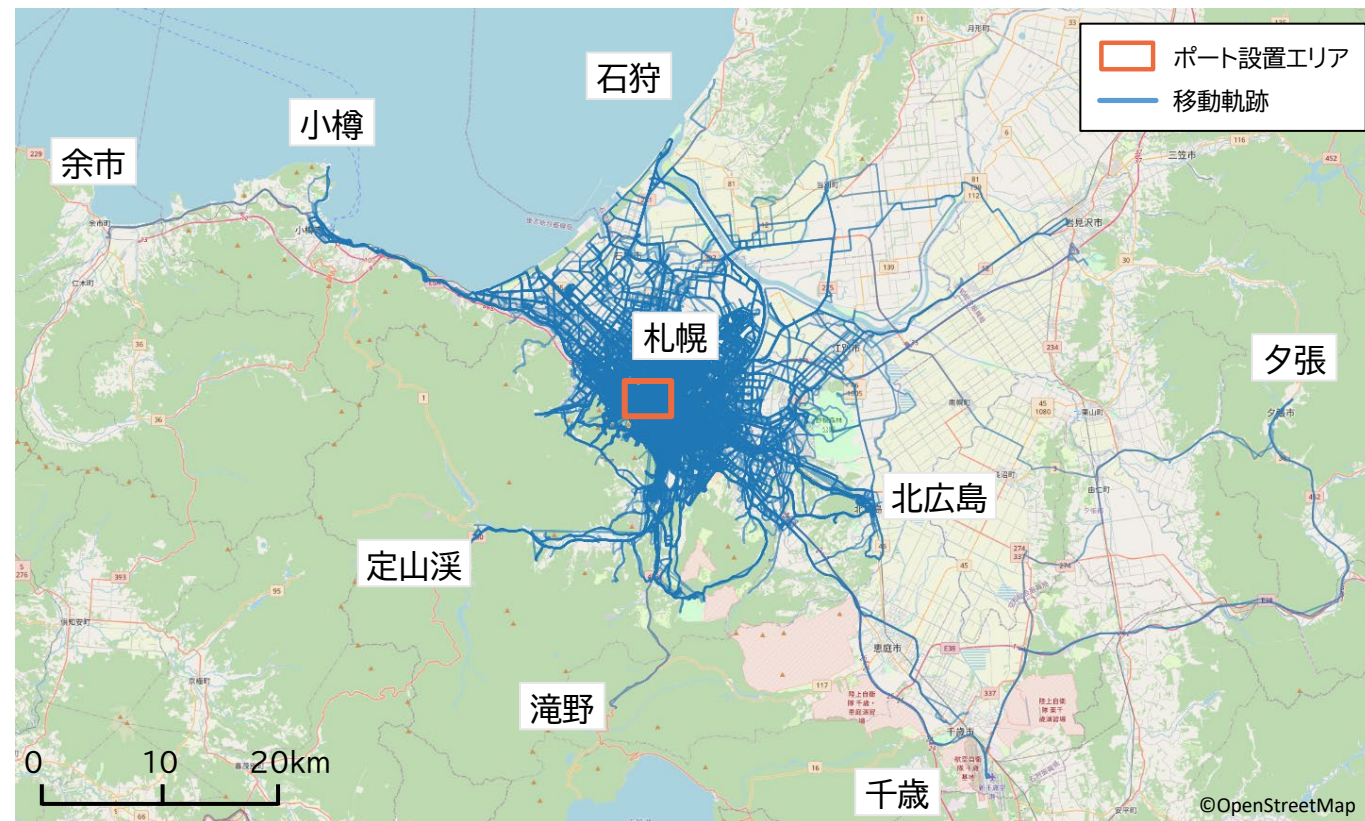
1日最大利用回数
3,510回

1日平均回転数
4.2回

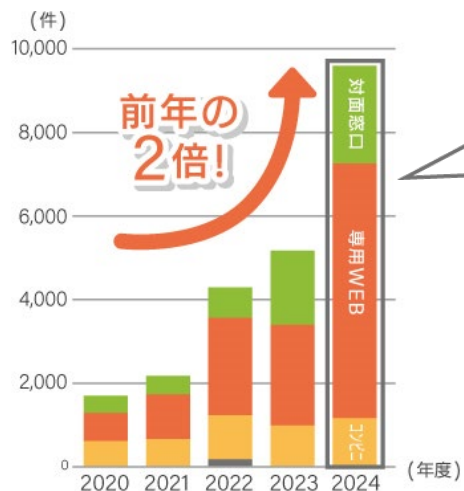
1日最大回転数
6.4回

【車載GPS軌跡】

- 札幌中心部のみならず、札幌近郊の周遊にも活用されている。
 - 総トリップ数:513,840回 / 1日の平均トリップ数:約2,300回
 - 1トリップの平均距離:約2.2km / 平均利用時間:約28分
- ※ 札幌-小樽間距離:約35km



【1日パス販売数(年計)】



1日パス購入者の国内外内訳
全販売件数で集計
(コンビニ販売分はすべて「不明」)

2024年

不明 1,193 13%
国内 4,916 51%
国外 3,486 36%

N=9,595

参考 2023年

不明 935 19%
国内 2,858 59%
国外 1,074 22%

N=4,867

2008年度～2010年度 草創期「チーム自転車創業」

【2008年度】

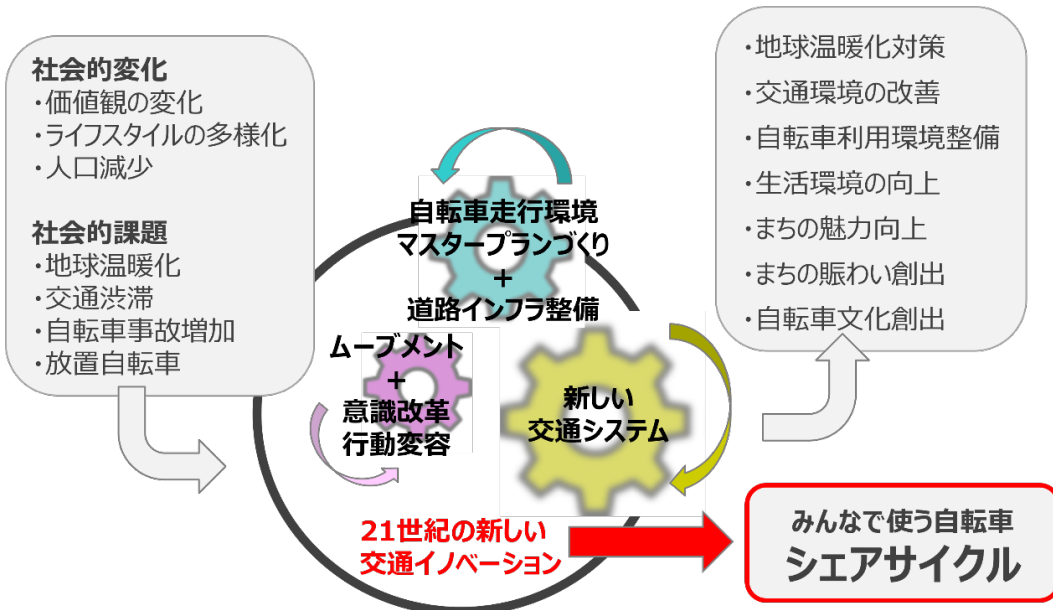
- ・株式会社ドーコン内の有志による「チーム自転車創業」発足。
- ・有識者等による任意団体「北海道モビリティデザイン研究会」を発足させ、体験型検討会を開催。

【2009年度】

- ・ドーコン新規事業として、サイクルポート・オペレーションシステムを開発。
- ・環境省の公募にて採択され「コミュニティサイクル社会実験」を実施。

【2010年度】

- ・株式会社NTTドコモと共同で、決済システムを加えた社会実験を実施。
- ・ドーコンは運営する子会社の設立を決定し、全国で2番目となるサイクルシェアリング事業を開始。

▲2008年
「北海道モビリティカフェ」開催

▲2009年環境省社会実験

2011年度～2014年度 ソーシャルビジネスの挑戦

DMD 株式会社ドーコンモビリティデザイン

【2011年度】

- ・株式会社ドーコンモビリティデザイン(DMD)を設立。
- ・サイクルシェアリング事業 “さっぽろみんなのサイクル『ポロクル』” 及び社会貢献活動をスタート。

【2014年度】

- ・3年間の実績評価結果から、「株式会社」での事業継続が困難であると判断。
- ・寄付を主な収入源とする「NPO法人」を設立し、事業と社会貢献活動を継続することを決定。

DMD

都市や地域における移動のしやすさを追求し、豊かな人間環境の創造に貢献します。

- ・にぎわい創出
- ・CO₂排出削減
- ・放置自転車減少
- ・マナー向上



課題解決のきっかけに...

~~ビッグビジネス~~ → ソーシャルビジネス

【にぎわい創出】



▲大通公園での体験試乗会

【自転車マナー向上】



▲中央警察署安全・安心自転車マナーアップ出陣式

【CO2排出削減】



▲環境省「北海道smart move大作戦」

【放置自転車対策】



▲放置自転車問題に悩む企業と連携

2015年度～現在 新しい社会モデルへの挑戦

 特定非営利活動法人ポロクル

【2015年度】

- ・2014年11月に設立した、特定非営利活動法人ポロクルによる様々な事業・活動がスタート。

【2016年度】

- ・社会貢献活動等の実績が、より客観的な基準において高い公益性を持っていると評価され、札幌市より「認定NPO法人」の認定を受ける。

【2019年度～現在】

- ・設備やシステムの老朽化、不安定な収支構造といった課題を解決し、事業活動を継続するため、ふたたび株式会社NTTドコモを訪れ、株式会社ドコモ・バイクシェアとのシステム連携を開始。
- ・国土交通省「令和元年度自転車活用推進功績者表彰」受賞。
- ・北海道総合通信局「令和6年度北海道テレコム懇談会会長賞」受賞。

2019.ポロクル新世代、始動。

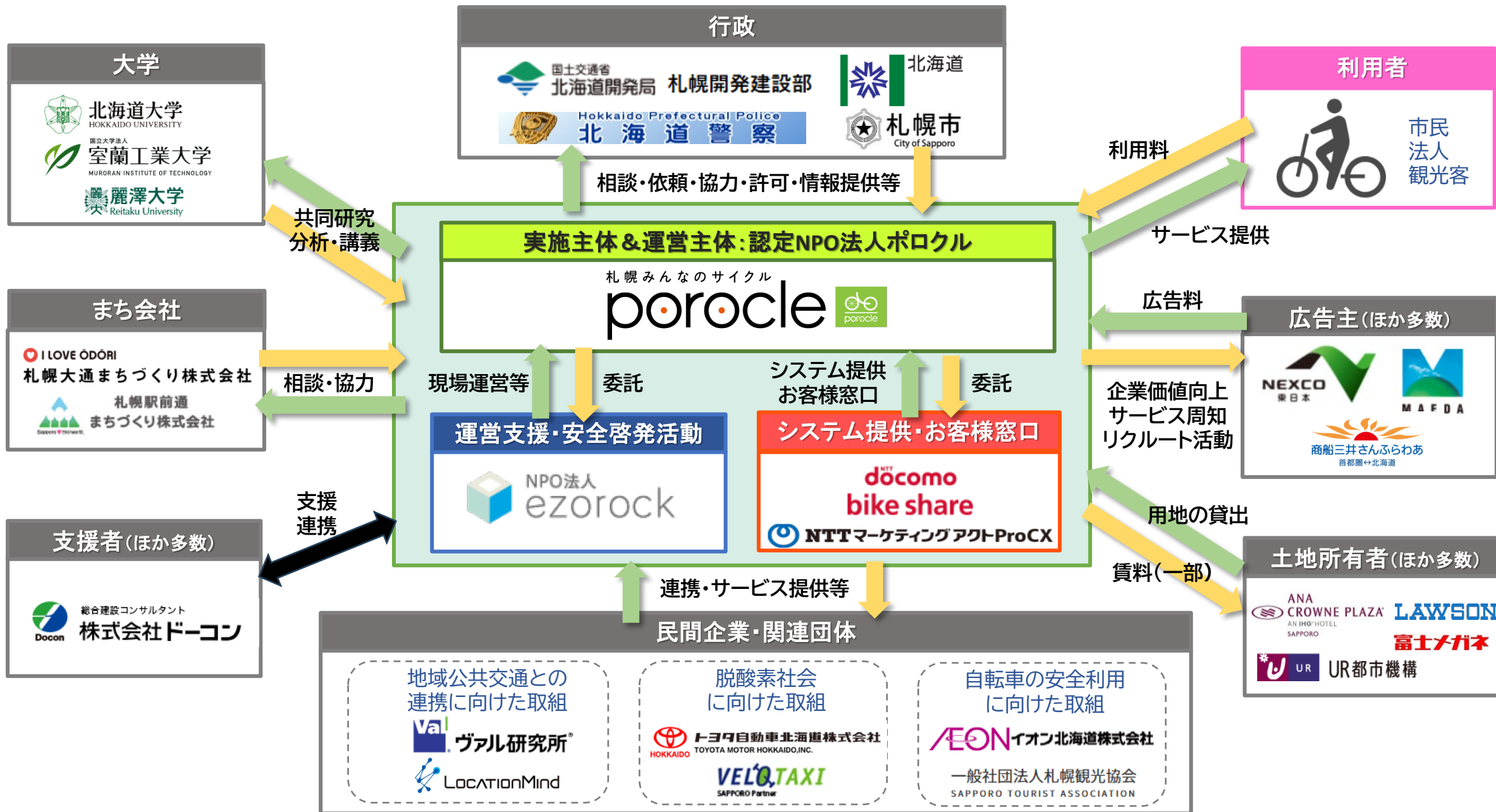
GO >> NEXT STAGE!



2011年の本格始動から8年。全国でも先駆的な取り組みとしてスタートしたシェアサイクルサービス「ポロクル」は、市民の移動から、観光客の移動まで、皆様に愛されるサービスとして成長してまいりました。今後も、札幌の「まちづくり」「ひとづくり」「魅力づくり」に貢献すべく、時代の変化に合わせ、平成が終わる2019年、新たな価値創造に向けチャレンジします。



『ポロクル』の事業スキーム



自転車の利用環境向上・安全利用に向けた取組

 NPO法人ezorock



車道左側走行



自転車のルールを知る、守ってみる

ハンドサイン



ルールやマナー
なぜ必要？
誰のため？
どうなれば？



市民の意識が変わる
行動変容に繋がる
きっかけをつくる



課題に気付く

歩行者の安全
自転車の安全
||

ルールを守る
思いやりを持つ



自転車の利用環境向上・安全利用に向けた取組



▲北海道警察主催 自転車マナーアップパレード
ポロクル40台・クルー作成の市民へのメッセージ



▲北海道主催 札幌市内高校サイクルサテライト
キャンパスでの自転車安全利用講習

【Sapporo Love Bicycle Days 2015】 自転車免許教習所開催

主催:ミライサイクルサッポロ実行委員会

目的:自転車の楽しさ伝え、ルール・マナーの関心を高める=自分・歩行者への思いやり

1. 警察による学科教習



2. 歩行者天国国内仮設コースでの教習



4. 企画運営に携わったスタッフ



3. 免許交付式



自転車の利用環境向上・安全利用に向けた取組

【北1条通自転車走行空間社会実験】

- ・車道走行を促すため車道から乗り入れ可能なポートを設置
- ・ポート看板に安全利用啓発メッセージ



メッセージ
↓↓↓
歩道は、
歩行者が優先。
自転車は徐行。



▲北海道交通安全協会・北海道警察
安全啓発CMへの協力



▲矢羽根型路面表示での啓発活動
ポロクルクルーによるデモ走行

【南1条通における道路空間活用実証実験】

- ・車道走行を促すため車道から乗り入れ可能なポートを設置
- ・ベロタクシー(自転車タクシー)と連携した取組を実施



▲さっぽろ自転車押し歩きキャンペーン
札幌市自転車押し歩き地区での
啓発活動に参加

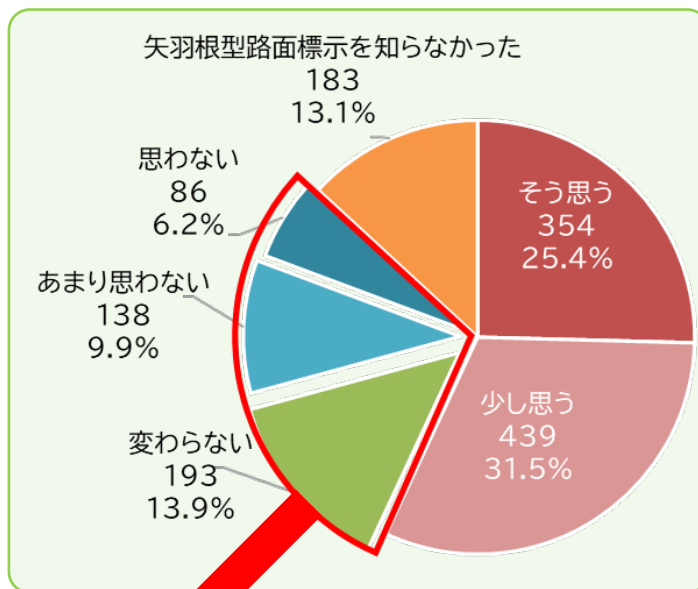
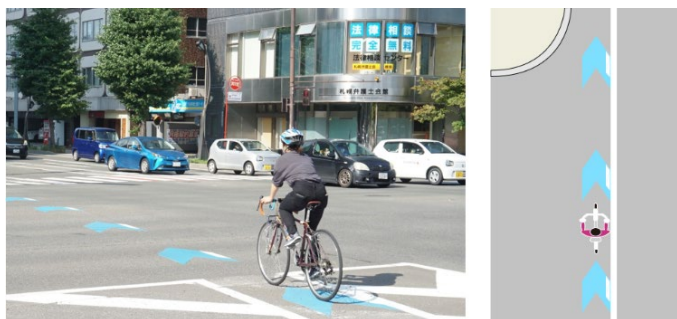


▲イオン北海道とのヘルメット着用促進
に向けた連携企画「あんぜん応援割」

自転車の利用環境向上・安全利用に向けた取組

【ポロクルユーザーアンケートの実施(年1回)】

Q:この写真のような自転車通行空間(矢羽根型路面標示)が整備されることによって、車道が走りやすくなりましたか？
(回答数:1,393)



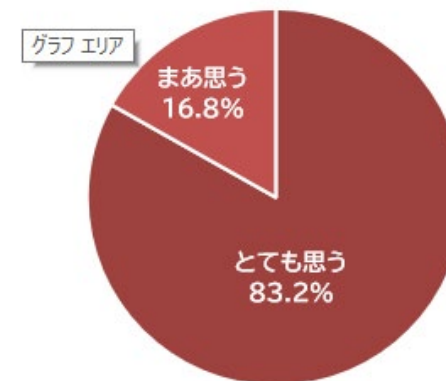
Q:上記の回答理由をお聞かせください
(回答者数:417)

- ・路上駐車が多く走りにくい
- ・表示があっても車道を走るのは怖い
- ・車のドライバーに認知されていない
- ・表示がある道路を走行したことがない
- ・道路の端に排水溝が多く、段差があり走りにくい
- ・幅寄せやあおり運転をされたため

【自転車ヘルメット着用促進モニター事業】

- ▶ 北海道と連携し、ヘルメットを無料で貸出し、アンケート調査を実施(2021年~4カ年)

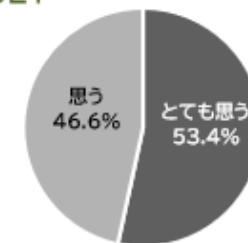
Q:頭部を守るため、ヘルメット着用は有効だと思いますか？ (2023年アンケート 回答者数:95)



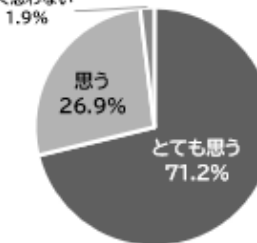
参考

Q.頭部を守るため、ヘルメット着用は有効だと思いますか？

2021



2022 全く思わない

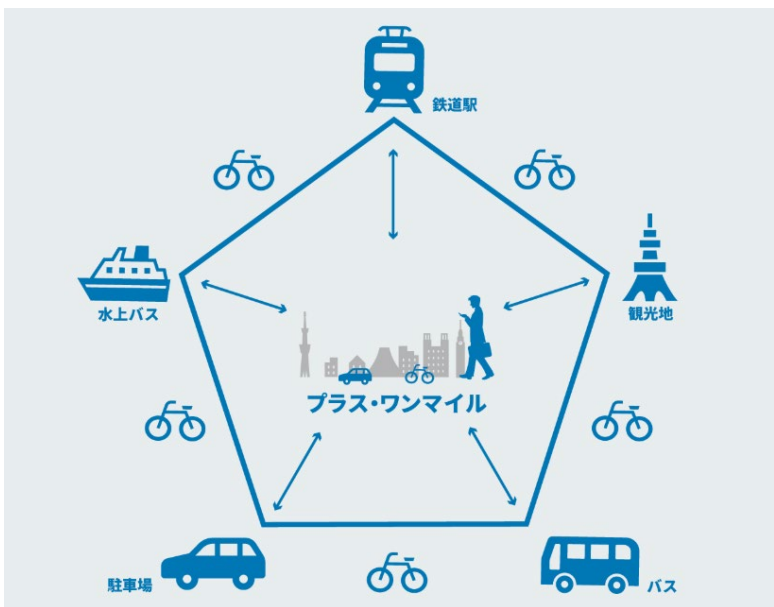


「MaaS」に対応した公共交通との連携



2018年5月『mixway(ミクスウェイ)』ベータ版をリリース

- 『駅すぱあと』の株式会社ヴァル研究所と共同開発し、「行き方に選択肢をもっと！mixway」の導入実験を開始。
- 国内初となる、シェアサイクルと公共交通の複合経路検索サービス。



▲MAPからポートのリアルタイム情報がみれる



▲GPSを活用することで、現在地から行きたい場所へ徒歩・公共交通・ポロクルを使った様々な経路を提案してくれる

展開 →



▲移動時間、料金、ポロクルの貸出・返却可能台数、その日の天気などが表示される

「防災まちづくり」に向けた取組

『災害時における相互協力に関する協定』

2022年_北海道開発局札幌開発建設部

- 2015年締結の協定を見直し、「相互協力」で再締結。
- 札幌開発建設部職員が行う災害復旧活動の緊急移動手段として**無償**でポロクルを貸し出し、札幌からは**道路情報等をポロクルへ提供**いただくことにより、ユーザーの二次被害拡大防止を図る。

『災害時におけるシェアサイクルの利用等に関する協定』

2022年_札幌市

- 2015年締結の協定を見直し、札幌市・ポロクルほか新たにドコモ・バイクシェアの三者間で再締結。
- 札幌市職員が行う災害時の応急・復旧活動の緊急移動手段として**無償**でポロクルを貸し出す。

【2023年9月1日防災の日_北海道開発局札幌開発建設部 災害協定連携訓練を実施】

訓練内容：①道路情報発信訓練・②ポロクル貸与要請訓練・③非常参集訓練・④被災状況調査訓練・⑤リエゾン派遣訓練



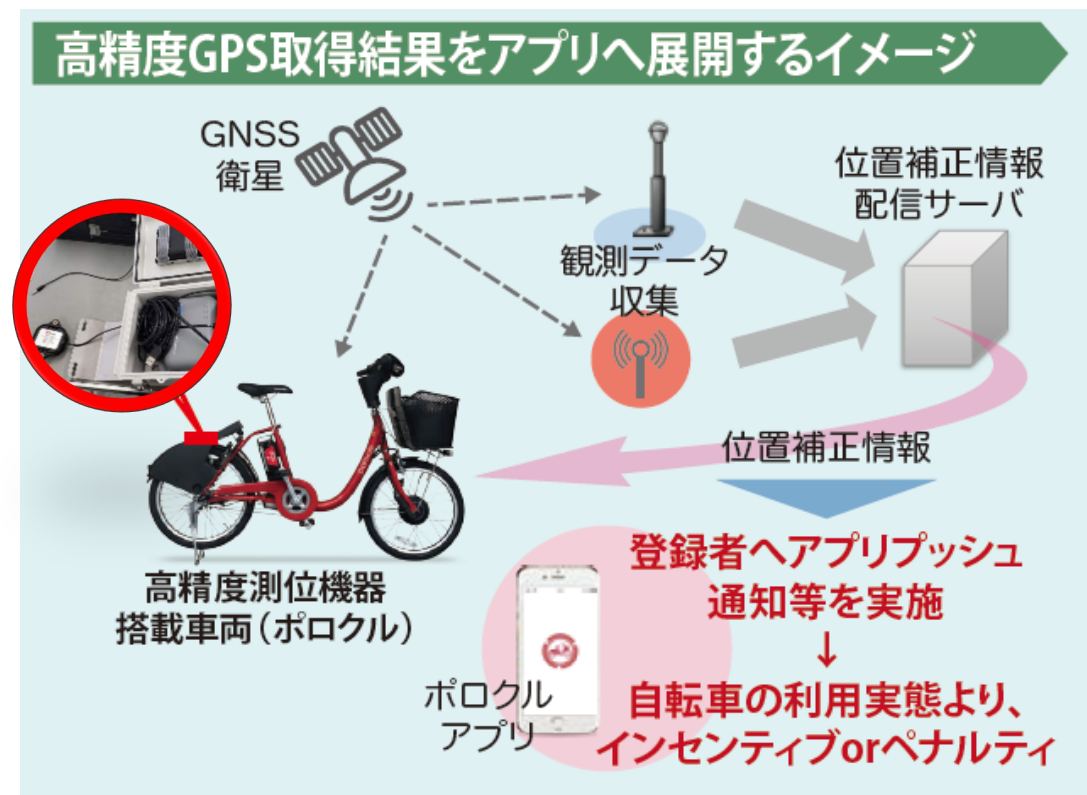
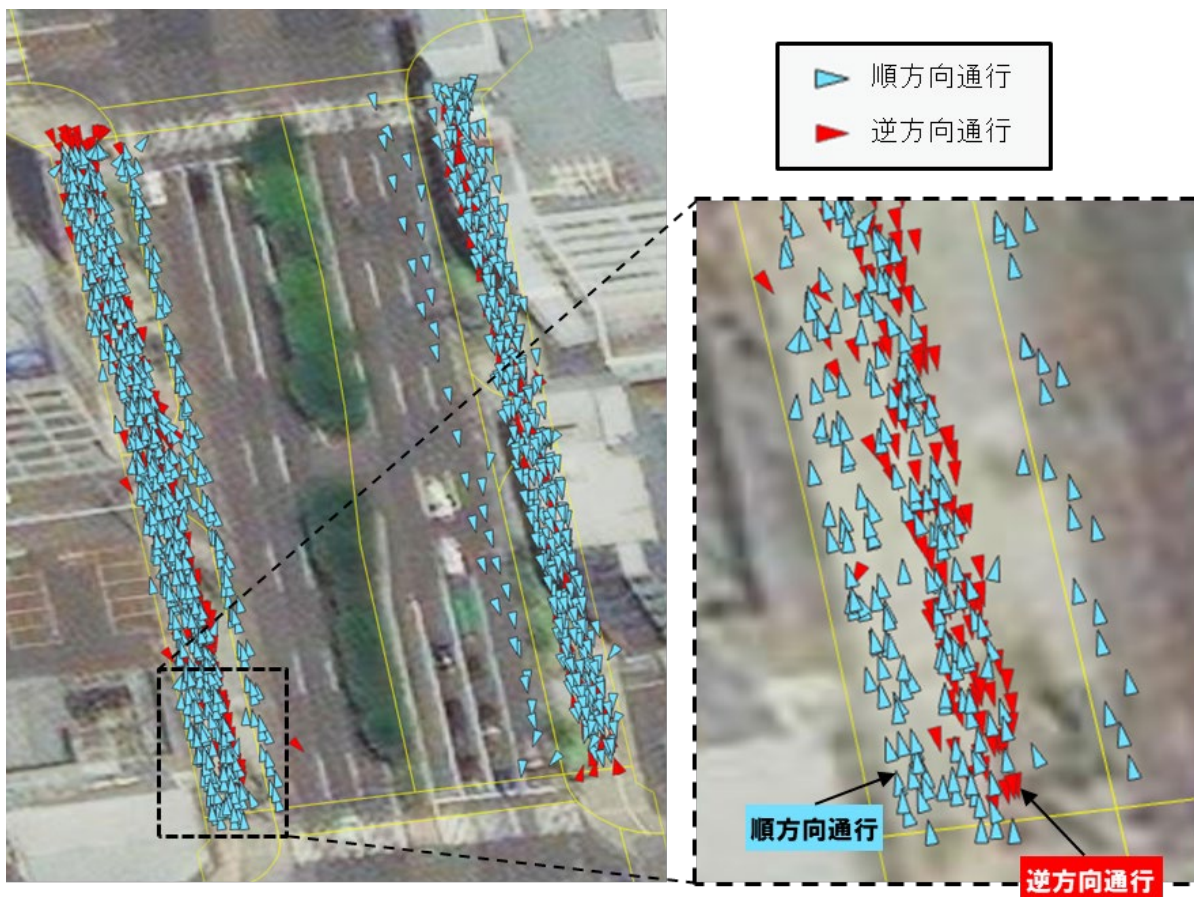
▲災害対策室本部



▲被災状況調査訓練

高精度GPSを活用した自転車交通安全のミライ

- 現在、車載しているGPSでは、通行した路線の補正により推定して移動軌跡を把握。
- **高精度GPS**の場合は位置精度が大幅に向上し、**歩道通行か車道通行か、順走か逆走か**、といった詳細な通行状況の把握が可能。



▲自転車安全利用者が増えるきっかけとなる取組イメージ

札幌市が目指す「水素社会」の実現に向けたミライ

- ▶ 札幌市は持続可能なまちづくりの一環として、**水素エネルギーの利活用の促進**に取り組んでいる。
- ▶ ポロクルはトヨタ自動車北海道株式会社と共同で、水素を動力源とするFC(燃料電池)アシスト自転車の試作品を開発し、2024年6月にローンチ。
- ▶ 市民や観光客の利用が増加しているポロクルを通して、**身近な水素の活用・普及促進を後押し**し、札幌市が目指す水素社会の実現に向けて貢献したい。



▲「BICYCLE-E・MOBILITY CITY EXPO 2024」での展示発表

ポロクルが育んできた「信頼しあう関係性」⇒ 持続可能な社会的価値の「共創」

